

1. 園の教育目標

教育の根源である宗教、道徳の基盤たるカトリック教義に基づき、教育基本法及び学校教育法により、幼児を保育し適当な環境を与えて、その発達を助長する。
めざすこども像として以下の6項目を掲げる
1、手を合わせる心を育てる。 2、返事・挨拶が素直にできる。 3、何事にもくじけず心も体も強い子に。
4、 思いやりのある心を育てる。 5、人の痛みのわかるやさしい人。 6、誰とでも仲良くする子ども。

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標

・基本的な生活習慣が身につく、丁寧に行うことで周囲への思いやりをもてるようになる。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
・生活の中で大切な挨拶や話を聞く態度、身の周りの整理整頓等を身につけられるようになる。	・まずは、保育者自身が子ども達の手本となる。その意識を持って、日々の生活を過ごすようにしてきた。 ・朝の会や帰りの会、様々な保育活動の中で、挨拶や返事、目を見て正しい姿勢で話を聞く、整理整頓を綺麗に行う等の大切さを伝え、指導してきた。 ・着替えや畳み方においては、繰り返し行うことで身につく、自信を持って行える子どもが多いが、時間を意識した着替えへの努力は今後の課題である。
・昨年度よりも園行事を増やし、子どもがいきいきとした姿を発揮できる場、又、保護者の方が成長を感じられる場を作っているようにする。	・行事前には教職員間、又、役員会を開いて開催にあたっての具体的な協議を行い、保護者・家族の方々の御理解、御協力のもと、昨年度よりもコロナ禍前の状態に近い形で各行事を滞りなく進めることが出来た事は大きかった。
・「折る」「切る」のお仕事に重点をおいた環境作りを整え、集中力・継続力を磨き、「できた」喜びや達成感を味わえるようにする。	・ハサミの持ち方や動かし方、角と角を綺麗に合わせて折る等、繰り返し提示で見せ、じっくりお仕事に取り組める時間を作ってきた。学期を追うごとに、難しいものに挑戦していく子ども達の成長する姿が作品からも伝わり、「やればできる」その自信が一人ひとりから溢れているように感じられた。
・安全対策・安全点検に十分注意を払った環境作りを努め、安心した園生活を提供できるようにする。	・必ず年1回は、専門業者に遊具点検を依頼することをはじめ、月1回の園舎、園周りの点検や毎日の遊具点検は職員が実施。危険箇所がないかの実態把握と状況を見ての修理・撤去作業を行い、安心して子ども達が遊べる環境作りを配慮してきた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

基本的な生活習慣を身につけることの大切さを常に意識して、日々の保育にあたってきた。園と家庭が協力し合って子どもを育てていくことが必要不可欠の為、気になることがあれば保護者の方へ報告、相談することが出来た。引き続き、両者協力のもと、個の育ちを見守っていききたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
・異年齢児と交流する機会を増やし、友だちの輪を広げ、刺激し合い、思いやりを育む環境作りを配慮していく。	・コロナ禍で、万が一の感染拡大を危惧し、ここ2～3年は異年齢児との交流を控えてきた為、来年度は縦割りでの活動や集まる場を増やし、仲を深めていける時間を作っていきたい。その中で、良い刺激を互いにもらいながら、成長し合える関係を構築していきけるようにする。
・「利用してみたい」と興味を持ってもらえるような子育て支援の充実化を図り、園児の獲得に努める。	・コロナウイルス感染症も大分落ち着いてきているので、にこにこランドやオーリーブの回数を増やしていく。又、園に足を運んでもらえる様な内容の充実を図り、途中入園や次年度の入園へと繋いでいけるようにする。
・教職員全員でひとつのチームであることを意識し、1人ひとりの教師の資質・能力の向上に努めると共に協力性・協働性を高めていく。 ・研修への積極的な参加	・新任が初めての職場で、楽しく子どもと関わり、保育できる環境作りを教職員全体で心掛けていく。 ・教える側は「伝わる様に伝える」を意識して人材育成に努めていく。 ・報告、連絡、相談を常に頭に入れて行動し、職員間での連携を深める。 ・新任研修をはじめ、これまで行けなかった研修に自己課題を持って意欲的に参加し、資質・技術向上を図る。